

『新生の明日を求めて』を出すにあたって 教区の皆様へ

大阪教区大司教 池長 潤

長らくお待たせいたしました。新生計画実施要領作成委員会で慎重に検討を重ねた結果、ようやく『新生の明日を求めて Part2』がまとまり、すでに出されています Part 1 の第 1 部と第 2 部とも合わせ、合本の形で皆様のもとにお届けすることになりました。

新生計画は、1984 年に日本司教団が出した『日本の教会の基本方針と優先課題』の中の、優先課題 3 で提案された福音宣教推進全国会議 (NICE) の実践の結果生まれた、これからの日本の教会の具体的歩みについての指針を大阪教区で実現するための計画として、大震災をきっかけに作られました。NICE は日本の教会の信徒、修道者、司祭がどれほど自分たちの運動として参加し、そこから指針を生みだしたかを改めて思い浮かべてみましょう。

大阪教区は NICE 後、この草の根から生まれた指針を実現するためにいち早く立ち上がり、いろいろな場でその取り組みを継続してきました。そして今日、教区全体が一丸となって次の歩みを作り上げてゆくことが、Part2 による明確な道しるべによって可能となったことを非常にうれしく思います。

ですから、NICE で立ち上がった時と同じように、ここでその NICE を具体化するために、新生計画の実現に向かって再び全員で立ち上がりましょう。そして一日も早く、大阪教区全体が力強い宣教共同体としてその姿を表すことができるように、心をつ一つにして前進しましょう。日本の人々も、他のアジアの諸国の人々とともに今どれほどイエスの福音を必要としていることでしょう。イエスを信じ、神を信じ、洗礼によってイエスの弟子となったすべての信仰者は、世界に対して神のメッセージを伝える大切な使命を与えられています。一人であるいは小教区という単位だけで、この務めを全面的に果たしてゆくことは不可能であることが明らかに見えています。そのために優先課題 1 で、一日も早く日本の教会に強力な福音宣教共同体を形成する必要があることが示されました。今こそ、この養成に教区として応じる時がきたのです。

ここで Part1 の「今後求めていく教会像」を思い出してください。

- ① 「谷間」に置かれた人々の心を生きる教会へ
- ② 「交わり」の教会へ
- ③ 「共同責任」を担い合い、協働する教会へ
- ④ 聖霊の導きを識別しながらともに歩む教会へ
- ⑤ 司祭・修道者との協力を重視しながら、信徒の役割と責任(使命)を前面に出す教会へ

と、これからの教会のあるべき五つの姿が描かれています。この五つの教会のあり方を一つにまとめると、これこそは強力な福音宣教共同体としての新しい教会像に他なりません。

聖霊の光に導かれたすべての信徒、司祭、修道者が、福音の使命に対する役割と責任を自覚して一つに結ばれ、さらに一小教区だけではなく、ブロックで、そして地区で手を取り合って力強い宣教共同体に成長し、イエスがとくにご自分の福音の中心に据えられた「谷間」に置かれた貧しい人々とこの福音の喜びを分かち合いながら、社会に対して福音とは何かを証言することこそ、私たちの新

生における課題なのです。そして私たちの教会がより力強い宣教共同体となるためには、まずその共同体自体がより深い交わりの共同体とならなければなりません。なぜなら、共同体としての成長そのものが宣教へと向かうことになるからです。

教区の皆様に、第二バチカン公会議、日本の司教団の打ち出した基本方針と優先課題、NICE、そして大阪教区の新設計画という一連の流れをご理解いただくために、『声』誌 1998 年 9 月号に「大阪教区宣言－②」として私の記事を掲載いたしました。各教区やブロック、地区単位で『新生の明日を求めて』を研究される際、司教団の出した『日本の教会の基本方針と優先課題』（1984 年 6 月 22 日）、同じく NICE1 のまとめた小冊子『ともに喜びをもって生きよう』（1988 年）とともに、参考のためにご利用いただければ幸いです。五年後、十年後の大阪教区が、人々の救いの道具となるために古い自分に死んで力強い宣教共同体へと新たに生まれ変わり、多くの実を結んでいることを期待します。

1998 年 10 月 18 日

世界宣教の日

〔優先課題〕

1. 教区、小教区を宣教共同体になるように育成する。
2. 修道会、宣教会、諸事業体(学校、施設)と具体的な協力態勢を敷く
3. 1987 年に、司教、司祭、修道者、信徒による福音宣教推進全国会議を開催し、それを目標に準備に取り組む。

(『日本の教会の方針と優先課題』より)